

# 総務委員会資料

所管事務の調査（報告）

令和4年度川崎市防災訓練の実施結果について

資料 令和4年度川崎市防災訓練の実施結果について

令和5年3月10日

危機管理本部

# 令和4年度 川崎市防災訓練の実施結果について

## 1 令和4年度川崎市防災訓練実施計画について

令和4年度の川崎市における防災訓練については、「令和4年度川崎市防災訓練実施計画」で目的及び実施方針等を定めており、次の項目により各々実施することとしている。

- (1) 令和4年度川崎市総合防災訓練（第43回九都県市合同防災訓練川崎市会場）
- (2) 各区の防災訓練
- (3) その他の訓練

## 2 川崎市防災訓練の実施結果について

### (1) 令和4年度川崎市総合防災訓練（第43回九都県市合同防災訓練川崎市会場）

首都直下型地震等の地震災害の発生に備え、自助・共助・公助の理念に基づき、市民、自主防災組織、企業、市及び関係行政機関等が迅速な初動活動と災害応急対策を確立するとともに、市民の防災意識の高揚及び地域防災力の強化を図ることを目的とする。

特に、今回は、大地震発生から3、4日経過後の避難所運営に着目した訓練を取り入れるなど、実際の発災時を想定した「より実践的」な防災訓練を実施した。

**ア 実施日時** 令和4年9月4日（日） 9：00～12：00

**イ 訓練場所** ・市消防訓練センター ・市立犬蔵中学校 ・市立犬蔵小学校 ・宮前スポーツセンター

**ウ 訓練参加機関**

・犬蔵小・中学校避難所運営会議、市及び防災関係機関等	約500人
・一般参加者	約500人
合 計	約1,000人

#### エ 訓練内容

##### (ア) 「大地震発生から数時間」を想定した訓練（市消防訓練センター 9:00～10:00）

発災から数時間後の市街地において、市及び各防災関係機関、協定締結団体が、相互に連携した救出救護訓練を実施した。

アンケート結果からは、「様々な機関の訓練を見ることができてよかった」との意見をいただいております。今回の訓練では、震災初動期の各機関や団体の役割分担や動きが確認できたものと思われる。ただし、各機関等の各々の行動に至る調整については十分な説明ができていなかった。今後は、丁寧な説明により理解が深まる訓練を実施していく。

【訓練メニュー】情報収集、道路啓開、緊急交通路確保、救出救護活動、一斉放水訓練

【訓練参加機関】消防、警察、自衛隊、DMAT、宮前消防団、川崎建設業協会宮前作業隊、災害救援バイク隊ペガサス宮前 等



道路啓開（道路公園センター）



道路啓開（川崎建設業協会）



救出救護（宮前消防署）



救出救護（神奈川県警察）



救出救護（陸上自衛隊）

# 令和4年度 川崎市防災訓練の実施結果について

## (イ) 「大地震発生から3、4日」を想定した訓練（市立犬蔵中学校、市立犬蔵小学校、宮前スポーツセンター 9:00～11:30）

発災から3、4日経った避難所を中心に、避難所運営訓練や医療・福祉訓練を実施した。また、緊急物資輸送訓練や、燃料補給訓練を同じフェーズのもと、近接した2ヶ所の避難所で同時に実施し、複数個所への情報伝達や運搬等を試みた。

避難所運営訓練では、訓練内容の検討段階から避難所運営会議メンバーと調整を重ね、地域の方々と共に訓練を作り上げていった。医療・福祉訓練では、超急性期から急性期に移り変わる避難所で起こりうる問題を取り上げ、避難所医療訓練や二次避難所移送訓練をシステムを活用して実施した。参加者へのアンケート結果からは、「訓練体験を通して災害時のイメージができた」、「災害時の準備が大切であることが確認できた」、「自分の通う学校が避難所になるイメージができた」との意見をいただいている。

また、緊急物資輸送や燃料補給訓練では、協定締結団体の協力のもと、複数避難所へ運搬を行ったが、市本部と区本部の連絡の不備により、受け渡しに難航するなどの問題もあり、今後も訓練を重ねて改善する必要がある。

【訓練メニュー】 避難所運営訓練、避難所医療訓練、二次避難所移送訓練、救援物資緊急輸送訓練（受入）、燃料補給訓練

災害ボランティアセンター運営訓練、区本部訓練、応急救護訓練

【訓練参加者】 犬蔵小・中学校避難所運営会議、DMAT（聖マリアンナ医科大学病院）、川崎地区ケア輸送連絡会、

神奈川県トラック協会川崎サービスセンター、神奈川県LPガス協会川崎北支部、特別養護老人ホームフレンド神木 他



避難所運営訓練



避難所運営訓練



避難所運営訓練



救援物資緊急輸送受入訓練



燃料補給訓練

## (ウ) 展示・啓発（市立犬蔵小・中学校、宮前スポーツセンター 9:00～11:30）

各会場では、消防や各関係機関、団体による展示、啓発を行った。犬蔵小学校では、ペットと同行避難する場合の必要品の展示や、携帯トイレの備蓄の重要性の啓発を行った。また、宮前スポーツセンターでは、赤十字奉仕団による応急救護訓練や、震災VRによる仮想体験を行った。

## (エ) まとめ

今回の訓練では、発災からの災害フェーズごとに会場を分けて各種訓練を実施することにより、発災直後の公助の流れや、その後の自助、共助の重要性について参加者に再認識された。今後も、市民を巻き込んで訓練を企画する機会を創出し、このような訓練が定型になるまで継続することが重要である。











## (2) 各区の防災訓練

各区において、地域住民、企業、防災関係機関等と連携し、それぞれの地域特性に応じて、実践的な訓練を実施した。

# 令和4年度 川崎市防災訓練の実施結果について

		日時・場所	目的	内容	成果及び反省点		
川崎区	第1回	<p>【日時】 令和4年10月22日(土) 10時00分～12時00分</p> <p>【会場】 新町小学校</p>	<p>本訓練は、川崎市域直下型地震の発生及び大雨や台風に伴い、地域、行政、関係機関等が連携を図り、発災後の迅速な初動対応、相互の顔が見える体制づくりのための体験型訓練として実施することで、災害に立ち向かう体制の構築や地域防災力の向上を図ることを目的とする。</p>	<p>【訓練】</p> <p>①初期消火訓練 ②放水訓練 ③地震体験 ④煙体験(避難) ⑤心肺蘇生法訓練(AED) ⑥応急救護訓練(三角巾) ⑦土のう積み訓練 ⑧応急給水訓練</p> <p>【啓発】</p> <p>①防災対策啓発動画上映 ②川崎消防署・団の広報・啓発 ③建物耐震対策啓発 ④災害時ごみ対策啓発 ⑤仮設トイレ展示 ⑥災害時口腔ケア ⑦ライフライン防災啓発 (N T T・東京ガス・東京電力)</p>	<p>【成果】</p> <p>地域住民に対して、各種訓練を体験していただいたことで、日頃から備えることの大切さや災害時における行動等についての意識付けとなり、地域防災力の向上につながったものと考えています。また、各種ハザードマップ及び防災啓発チラシ等、防災に関する資料の配布により、災害時における情報収集方法等について提供することができました。</p> <p>【反省点】</p> <p>参加者の訓練・啓発ブースへの流れに偏りがあり、体験していただけていない訓練・啓発ブースがあったことから、会場案内方法や配置を検討していく必要がある。</p> <p>【今後の取り組み】</p> <p>防災に対する啓発を行い、災害時には適切な行動をとっていただけるよう引き続き各種訓練を行っていくとともに、広報周知に努めながら、地域の方々が参加できる実践的な訓練を企画・実施していく。</p>		
		    	放水訓練	心肺蘇生法訓練(AED)	応急給水訓練	建物耐震対策啓発	災害時ごみ対策啓発
	第2回	<p>【日時】 令和5年2月12日(日) 8時30分～11時45分</p> <p>【会場】 臨港中学校</p>	<p>直下型地震の発生及び津波・大雨・台風に伴い、地域、行政、関係機関等が連携を図り、発災後の迅速な初動対応、相互の顔が見える体制づくりのため、実践的な参加型訓練を実施し、区民の災害対応力向上を図ることを目的とする。</p>	<p>【訓練】</p> <p>①津波避難訓練 ②要援護者避難時の支援者側避難誘導訓練 ③実動訓練 ④水消火器初期消火訓練 ⑤応急救護訓練(三角巾) ⑥心肺蘇生法訓練(AED) ⑦応急給水訓練 ⑧土のう積み訓練</p> <p>【啓発】</p> <p>①津波防災講座 ②災害時口腔ケア ③防災資器材展示(防災見本市)</p>	<p>【成果】</p> <p>津波避難施設に指定している臨港中学校で津波避難訓練を実施したことで、地域や施設の危険箇所等を事前に把握でき、参加者からは避難する際のイメージができたとの高評価を得た。</p> <p>総合防災訓練では、体験・啓発ブースに加え、地域及び行政によるバケツリレー及び消防救助訓練等の実動訓練を行ったことで、災害への関心を高めるとともに地域の災害対応力向上につながった。</p> <p>【反省点】</p> <p>参加者に高齢者及び子供が多く参加しているものの、共助の中心となる20代から50代の年代の参加が少ないことから、SNS等で情報発信による効果的な広報で参加を呼び掛けていく。</p> <p>【今後の取り組み】</p> <p>多種多様な訓練を取り入れて、地域の防災意識の高揚及び防災力の強化を図る総合防災訓練を引き続き実施していく。</p>		
		    	要援護者避難時の支援者側避難誘導訓練	実動訓練(シェイクアウト)	実動訓練(消火バケツリレー)	水消火器初期消火訓練	津波防災講座

# 令和4年度 川崎市防災訓練の実施結果について

		日時・場所	目的	内容	成果及び反省点
幸 区	第1回	<p>【日時】 令和4年6月5日(日) 10時30分～12時00分</p> <p>【会場】 幸区役所</p>	<p>地域の自立型防災力の向上の推進に向け、コロナ禍による防災意識や災害対応等の変化を踏まえつつ、地域、防災関係機関、職員等の防災意識の高揚と災害対応力の向上を図る。</p>	<p>【訓練】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の自主防災組織による要援護者の安否確認、避難誘導訓練</li> <li>避難所開設図上訓練</li> <li>組立式トイレ設置訓練</li> <li>発電機、投光器取扱い訓練</li> <li>水消火器、消火ホースキットを使用した初期消火訓練</li> <li>総合防災情報システムを使用した情報受伝達訓練</li> </ul> <p>【啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>VR体験</li> <li>幸区50周年記念事業の機会を捉えた防災見本市</li> </ul>	<p>【成果】</p> <p>コロナ禍での訓練の中で、区役所敷地内で実施し、省スペースで多くの訓練、啓発が展開でき、また、TVモニターを使用した図上訓練等を用いることで、自助の行動から避難所開設までの手順を確認することができた。コンパクトではあったが地域防災力の向上に繋がった訓練が実施できた。</p> <p>【反省点】</p> <p>前日の幸区50周年事業に引き続き実施したことより、若い世代の参加を促せたものの、実践的な各種の訓練への積極的参加に繋がっていくことについて検討する必要がある。</p> <p>【今後の取組み】</p> <p>より実践的な避難所開設訓練の実施と、引き続き若い世代の参加促進に向けた企画・実施</p>
	 <p>組立式トイレ設置訓練</p>  <p>発電機取扱い訓練</p>  <p>水消火器を使用した消火訓練</p>  <p>VR体験</p>  <p>防災見本市</p>				
第2回	<p>【日時】 令和5年2月11日(土) 9時00分～11時00分</p> <p>【会場】 南河原中学校</p>	<p>地域の自立型防災力の向上の推進に向け、コロナ禍による防災意識や災害対応等の変化を踏まえつつ、地域、防災関係機関、職員等の防災意識の高揚と災害対応力の向上を図る。</p>	<p>【訓練】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の自主防災組織による要援護者の安否確認、避難誘導</li> <li>避難所運営会議による避難所開設訓練</li> <li>総合防災情報システムを使用した情報伝達訓練</li> <li>AEDを使用した心肺蘇生訓練、応急救護訓練</li> <li>口腔ケア訓練</li> <li>エコノミークラス症候群予防訓練</li> </ul> <p>【啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3区連携による啓発冊子等の配布</li> <li>ペット防災の紹介</li> </ul> <p>※前日の降雨によりグラウンドが使用不可になったため、規模を縮小して実施</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>天候のため屋内のみの訓練となったが、多くの市民が参加したことで、地域の防災意識や対応能力を高めることができた。</li> <li>自主防災組織による安否確認、避難誘導訓練から避難所開設訓練においては、実際に災害時要援護者、聴覚障害者に参加していただいたことで、より実践的な訓練に繋がられた。</li> </ul> <p>【反省点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グラウンドコンディションによる訓練内容の変更について、より具体的な情報発信の検討が必要である。</li> <li>限られた訓練場所に人が集中し災害時に近い環境での訓練となったものの、各々の訓練が円滑に実施できるための検討も必要である。</li> </ul> <p>【今後の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>避難所運営訓練を中心とした、フェーズを変えた実践的な訓練の実施</li> <li>中止となった発電機や応急給水、煙体験等の実践的な訓練と若い世代を巻き込むための各種訓練の継続実施</li> </ul>	
 <p>避難所開設訓練</p>  <p>情報受伝達訓練</p>  <p>AEDを使用した心肺蘇生訓練</p>  <p>応急救護訓練</p>  <p>ペット防災紹介</p>					

# 令和4年度 川崎市防災訓練の実施結果について

		日時・場所	目的	内容	成果及び反省点
中原区	第1回	<p>【日時】 令和4年8月20日(土) 9時00分～12時00分</p> <p>【会場】 中原区役所、区内28避難所 及び上丸子小学校</p>	<p>コロナ禍以降、実践的な訓練機会を設けることが困難であったこと、総合防災情報システム及び災害対応工程管理システム(BOSS)が導入されたことから、風水害時の緊急避難場所を開設(準備)し、区役所職員の防災意識の向上及び避難所開設の実践的な手順を確認する。</p> <p>また、開設に関する課題である受付等の活動をマニュアル化し、避難所運営会議にて地域に説明・継続訓練することで地域防災力の向上を図る。</p>	<p>①区内28避難所開設準備訓練 ・各緊急避難場所までの道中における危険箇所の把握 ・備蓄倉庫内の資機材確認及び校門等の開錠確認 ・総合防災情報システム及び災害対応工程管理システム(BOSS)を活用した情報受伝達と共有</p> <p>②区本部運営訓練 ・区本部の設置 ・システムを活用した情報受伝達と共有 ・消防・警察との情報共有</p> <p>③避難所開設訓練 上丸子小学校において、自主防災組織が学校と個別に調整し、区本部と連携した避難所開設訓練を実施</p>	<p>【成果】</p> <p>① 本訓練に先立ち、職員向け事前研修を実施し47名が参加した。訓練当日は94名が参加し、危険箇所は各避難所用のタブレット端末を用いて写真データを区本部と共有し、備蓄倉庫の使い勝手や鍵の取扱い等、緊急避難場所ごとの課題が明らかになるとともに、職員の実務習熟が図られた。</p> <p>② 上丸子小学校では地域住民が47名参加し、訓練参加者の視点から相互の活動が確認でき、有益な経験となった。</p> <p>③ コロナ禍による活動停滞から訓練が実施できないとの相談を受けていたことから、本訓練で得られた課題の共有、感染症対策を講じた上での実務習熟訓練は、災害対応に必要な不可欠であることを避難所運営会議や自主防災組織に周知し、前向きな活動につながるよう支援した。</p> <p>④ 中原区町内会連絡協議会防災講演会にて、各自主防災組織内での取り組みを促進するため、地域との活動状況を報告した。</p> <p>【反省点】 本訓練の実施にあたり、自主防災組織及び市立学校と事前調整を行ったが、コロナ感染拡大を懸念した活動自粛の傾向が強く、上丸子小学校を除き、校舎内の利用には至らなかった。</p> <p>【今後の取組み】 コロナ禍により、地域の参加について十分な調整がつかなかったが、より多くの方が安心して参加できる訓練について、地域と区役所で検討をしていく。</p>
		 <p>区内28避難所開設準備訓練</p>	 <p>区本部運営訓練</p>	 <p>避難所開設訓練</p>	 <p>避難所運営会議訓練</p>
	第2回	<p>【日時】 令和5年2月25日(土) 9時00分～11時00分</p> <p>【会場】 下小田中小学校</p>	<p>震災時に地域で助け合える仕組みづくりや地域防災力の強化に向けた取組を推進し、第1回総合防災訓練で得られた実務習熟訓練の重要性や各避難所ごとの課題について、避難所運営会議で周知し、地域住民による避難所開設に関する活動の標準化を図る。</p> <p>また、年2回、地区別に輪番での継続実施を通して、「自助」「共助」の取組や活動を区全体に浸透させることを目指し、誰もが気軽に防災に関する「気づき」につながる機会を創出し、日常から使える防災知識を提供する。</p>	<p>【訓練】</p> <p>①避難所開設訓練 ②防災資器材使用訓練(仮設トイレ・ホールパーテーション・プライベートテント組立) ③要配慮者対応訓練(盲導犬利用者避難所体験) ④炊き出し訓練 ⑤防災資器材体験訓練(発電機・ロープ取扱い) ⑥体験型訓練(煙・119番通報・水消火器・簡易担架・応急処置・消防ホース・ガスマスク復旧操作) ⑦応急給水訓練</p> <p>【啓発】</p> <p>①避難所ツアー(校門・備蓄倉庫・校舎・体育館・校庭) ②震災時間経過をイメージした実体験(事前の備え-発直後-数時間後-翌日以降) ③防災車両展示 ④防災資器材展示</p>	<p>【成果】</p> <p>① 事前に避難所運営訓練参加者の役割を決めず、当日集まった避難所運営会議メンバー及び地域の方が開設から運営までを避難所運営マニュアルに基づき実施し災害に即した運営を行い、参加者からは普段話さない方とコミュニケーションが取れて積極的に活動ができたとの声があった。</p> <p>② 校庭にて震災時間経過実体験ブースを関係団体の協力のもと設置し、児童とその家族が多数来場し体験や実際に自らが訓練を行い自宅での備えについて、見直す等の声があり防災への関心が高まった。</p> <p>また、要配慮者対策の課題確認のため、盲導犬利用者が避難所内を巡回体験し、避難所運営メンバー及び地域の方とコミュニケーションの取り方やお手伝いの方法等を確認し、積極的に対話を行い要配慮者等への理解を深めるとともに、事前課題であった避難所内での情報共有の方法についても確認した。</p> <p>【反省点】 実践的な参加者体験型訓練を行ったため、多数の来場者が参加することで盛況になった一方、訓練終了時刻に近づいても体験待ちの方が多く発生してしまい、スケジュール管理を柔軟に行う必要があった。</p> <p>【今後の取組み】 参加型訓練で良い経験になったという声が寄せられたが、時間内にさらに多くの方に体験をしていただく場所を提供するため、訓練を実施する避難所運営会議メンバーと検討を行う必要がある。また、避難所運営訓練が実施できていない地域に対しては、本訓練の実施方法や取り組み方を説明し実施していく。</p>
		 <p>避難所開設訓練</p>	 <p>防災資器材使用訓練</p>	 <p>盲導犬利用者避難所体験</p>	 <p>震災時間経過をイメージした実体験</p>

# 令和4年度 川崎市防災訓練の実施結果について

		日時・場所	目的	内容	成果及び反省点
高津区	第1回	<p>【日時】 令和4年11月5日(土) 8時50分～11時00分</p> <p>【会場】 西梶ヶ谷小学校</p>	<p>区民一人一人の防災意識の高揚を図るとともに、町内(自治)会と各防災関係機関・団体が互いに連携協力して防災体制の強化を図ることを目的とする。</p>	<p>【訓練】</p> <p>①市民参加型訓練 (情報伝達・避難訓練、放水訓練、水防工法訓練、応急救護訓練、仮設トイレ組立訓練、119通報訓練、要援護者確認訓練、災害伝言ダイヤル体験訓練)</p> <p>②避難所開設訓練</p> <p>③救出救護訓練</p> <p>【啓発】 訓練会場において協力団体による防災啓発ブースの設置(まちづくり局、上下水道局、高津警察署、高津消防署、建設業協会特設作業隊、NTT東日本、東京ガスネットワーク川崎支店、高津区社会福祉協議会、溝の口減災ガールズ、東京電力パワーグリッド川崎支社)</p>	<p>【成果】 コロナ禍であるため、人数制限はあったものの、訓練当日は多くの自主防災組織の方々に御参加いただき、各ブースを体験してもらうことで防災意識を向上することができた。 訓練当日は小学校の生徒が防災授業の一環として参加し、次世代を担う子供の防災啓発に取り組めた。 また、多文化共生の一環として外国人市民の参加を促し防災訓練を通して日本の文化を体験してもらうことができた。</p> <p>【反省点】 今後、コロナ禍において一般市民の方が参加できる訓練内容等検討する必要がある。</p> <p>【今後の取組み】 各町内会・自治会関係者及び学校関係者等と総合防災訓練の参加人数の規模及び訓練内容について協議していく。</p>
		 <p>仮設トイレ組立訓練</p>  <p>避難所開設訓練</p>  <p>救出救護訓練</p>  <p>防災啓発ブース(NTT東日本)</p>  <p>防災啓発ブース(高津消防署) 『西梶ヶ谷小学校生徒参加の様子』</p>			
	第2回	<p>【日時】 令和5年3月5日(日) 10時00分～11時30分</p> <p>【会場】 橘小学校</p>	<p>防火・防災意識の啓発・高揚と、災害時における基礎的な技術の習得を目指し、地域住民が参加した実践的な訓練を実施する。 また、実際に訓練の参加者が、各町内会・自治会で行う実践的な訓練を実施する一助とし、地域への防災意識の広がりを目指す。</p>	<p>【訓練】</p> <p>①避難誘導参集訓練 ②応急救護訓練 ③仮設トイレ組立訓練 ④起震車体験訓練 ⑤煙体験訓練 ⑥初期消火訓練 ⑦水防訓練 ⑧給水訓練 ⑨備蓄倉庫の物品紹介 ⑩放水訓練</p>	<p>【成果】 新型コロナの影響で4年ぶりの開催となった。各町会・自治会との調整の上、訓練内容の工夫や訓練当日の参加を絞るといった感染対策を行った。 訓練当日は250名の地域住民の方が参加し、各ブースを体験することで、防火・防災意識の啓発・向上を図ることができた。 また、高津地区少年消防クラブと外国人市民の参加があり、防災啓発の向上と地域との顔の見える関係づくりを図ることができた。</p> <p>【反省点】 感染症対策を踏まえつつ、参加人数の制限解除及び訓練項目の見直し・検討を行っていく必要がある。</p> <p>【今後の取組み】 コロナ次第ではあるが、過去の訓練の再開やコロナ禍でも可能な訓練を取り入れていくこと。</p>
		 <p>放水訓練</p>  <p>備蓄倉庫の物品紹介</p>  <p>初期消火訓練</p>  <p>応急救護訓練</p>  <p>仮設トイレ組立訓練</p>			

# 令和4年度 川崎市防災訓練の実施結果について

		日時・場所	目的	内容	成果及び反省点
宮前区	第1回	<p>【日時】 令和4年9月4日(日) 9時00分～12時00分</p> <p>【会場】 犬蔵中学校 犬蔵小学校 消防訓練センター 宮前スポーツセンター</p>	川崎市域直下型地震等の地震災害の発生に備え、自助・共助・公助の理念に基づき、市民、自主防災組織、企業、市及び関係行政機関等が迅速な初動活動と災害応急対策を確立するために、市民の防災意識の高揚及び地域防災力の強化を図る。	<p>【参加型訓練】</p> <p>①避難所運営訓練 ②区本部訓練 ③体験型訓練(放水、初期消火、煙体験、地震体験、応急救護、VR体験、応急給水、重量物持ち上げ、ガラス踏み体験、集合住宅上階からの負傷者救出訓練) ④避難所医療訓練・二次避難所移送訓練 ⑤救援物資緊急輸送訓練(受け入れ) ⑥燃料補給訓練 ⑦災害ボランティアセンター運営訓練 ⑧救出救護訓練 ⑨航空機による偵察訓練</p> <p>【防災啓発】</p> <p>①宮前消防団の広報・啓発 ②防災啓発(川崎市男女共同参画センター、宮前区薬剤師会、NTT東日本、東京ガス、東京電力パワーグリッド、宮前警察署、まちづくり局、健康福祉局・衛生課、地域みまもり支援センター、川崎市聴覚障害者情報文化センター)</p> <p>【その他】 聴覚障害者に対しての各種訓練の案内</p>	<p>【成果】</p> <p>地域の方々に、発災から3～4日後の避難所運営について事前に考えてもらい、訓練を重ねたことで、今まで実施していた避難所開設訓練以降の具体的なイメージを持ってもらうことができた。また、地域の方々、学校職員、区役所職員で中長期的な避難所運営について共通認識を持つことができた。川崎市総合防災訓練と合同開催のため、普段は目にすることがない、複数の機関が協力した大規模な演習を見学してもらい、防災意識の向上を図ることができた。</p> <p>【反省点】</p> <p>市の総合防災訓練と合同で実施したため関係部署が多く、調整や訓練の準備に多くの時間がかかってしまい、参加者への説明が不十分になってしまった。</p> <p>【今後の取組み】</p> <p>避難所運営訓練の進んでいない地域において、まずは避難所開設訓練の練度を上げてから、避難所運営の要素を取り入れた訓練を実施していく。</p>
		 <p>避難所運営訓練</p>  <p>区本部訓練</p>  <p>初期消火訓練</p>  <p>救援物資緊急輸送訓練</p>  <p>防災啓発ブース</p>			
	第2回	<p>【日時】 令和5年2月12日(日) 9時00分～12時00分</p> <p>【会場】 有馬小学校</p>	川崎市域直下型地震等の地震災害の発生に備え、自助・共助・公助の理念に基づき、市民、自主防災組織、企業、市及び関係行政機関等が迅速な初動活動と災害応急対策を確立するために、市民の防災意識の高揚及び地域防災力の強化を図る。	<p>【参加型訓練】</p> <p>①避難訓練 ②避難所開設訓練 ③体験型訓練(放水、初期消火、煙体験、地震体験、応急救護、応急給水、重量物持ち上げ、要配慮者疑似体験) ④救出救護訓練 ⑤航空機による偵察訓練</p> <p>【防災啓発】</p> <p>①宮前消防団の広報・啓発 ②防災啓発(川崎市男女共同参画センター、宮前区薬剤師会、NTT東日本、東京電力パワーグリッド、宮前警察署、健康福祉局・衛生課、川崎市聴覚障害者情報文化センター、防災協力事業所) ③車両展示</p> <p>【その他】 ①聴覚障害者に対しての各種訓練の案内②職員向け防災情報システム操作訓練③職員向け無線交信訓練</p>	<p>【成果】</p> <p>・総合防災訓練に先立ち、自治会の避難訓練を実施した。自治会ごとに一時避難場所に集合した後、要援護者及び疑似体験者(疑似体験具を装着)も参加し、支援者の補助を受けながら一緒に避難することで、援護が必要な方へのサポートや配慮についての体験も行った。また、子供を対象としたイベントとして防災協力事業所等も含めた災害時に活動する車両を展示し、子育て世代を呼び込むことができた。</p> <p>【反省点】</p> <p>・要援護者を含めた避難訓練の実施や手話通訳等の配置がある中で、障害者向けの広報が不足していたため、配慮を必要としている方の参加が少なかった。</p> <p>【今後の取組み】</p> <p>・引き続き避難所の開設・運営訓練を実施し、地域の防災意識の向上を図るとともに、関係部署と連携して配慮を必要としている方々に向けて、訓練に参加してもらえるように広報を実施する。</p>
		 <p>避難訓練</p>  <p>避難所開設訓練</p>  <p>要配慮者疑似体験</p>  <p>車両展示</p>  <p>職員向け無線交信訓練</p>			



# 令和4年度 川崎市防災訓練の実施結果について

		日時・場所	目的	内容	成果及び反省点
多摩区	第1回	<p>【日時】 令和4年11月6日(日) 9時30分～11時30分</p> <p>【会場】 南生田小学校</p>	<p>過去に日本各地で発生した災害から、地域の連携・協力により助け合う地域のつながりが、災害時に最も重要な「防災力」となっていると考え、その向上のため、地域住民相互が訓練を通じて顔の見える関係を築き、防災関係団体の力も得て、地域の防災力を向上させることを目的に訓練を実施。</p>	<p>【訓練】 ①震災避難訓練 ②避難所開設訓練 ③情報伝達訓練 ④仮設トイレ組立訓練 ⑤放水訓練 ⑥水防工法訓練 ⑦応急給水訓練 ⑧火災避難訓練 ⑨ロープ結索訓練 ⑩消火ホースキット取扱い訓練</p> <p>【啓発】 ①消防団・消防ボランティアの広報・啓発 ②仮設トイレ(環境局) ③吸収式携帯トイレ啓発・実演(シエラ株式会社) ④水害VR体験(危機管理担当) ⑤ボランティアセンター(社会福祉協議会) ⑥災害用伝言ダイヤル(NTT) ⑦感電ブレーカー(東京電力) ⑧防災啓発(地域みまもり支援センター、まちづくり局、多摩警察署、危機管理担当)</p>	<p>【成果】 ①コロナ禍の避難所運営会議において、開催することへの不安の声がありながらも、話し合いを続け、コロナ禍前に近い状態で3年ぶりに開催することができ、防災力の向上を図ることができた。 ②防災に関わる団体による啓発・訓練を行い、地域住民の防災への関心・知識を高め、防災力の向上を図ることができた。</p> <p>【反省点】 避難所開設訓練において、3年ぶりの開催であったことから、事前の準備が過大となってしまい、リアリティーが十分でない訓練となったところがあった。</p> <p>【今後の取組み】 体育館等の事前準備は行わず、備蓄倉庫を開ける段階から避難所開設まで、訓練当日に行うとともに避難所開設訓練参加者が十分にその他の訓練・啓発に参加できる時間を確保する。</p>
		 <p>避難所開設訓練</p>  <p>水防工法(土のう作成)訓練</p>  <p>仮設トイレ啓発</p>  <p>水害VR体験</p>			
	第2回	<p>【日時】 令和4年12月11日(日) 9時30分～12時00分</p> <p>【会場】 長尾小学校</p>	<p>過去に日本各地で発生した災害から、地域の連携・協力により助け合う地域のつながりが、災害時に最も重要な「防災力」となっていると考え、その向上のため、地域住民相互が訓練を通じて顔の見える関係を築き、防災関係団体の力も得て、地域の防災力を向上させることを目的に訓練を実施。</p>	<p>【訓練】 ①震災避難訓練 ②避難所開設訓練 ③情報伝達訓練 ④仮設トイレ組立訓練 ⑤放水訓練 ⑥水防工法訓練 ⑦応急給水訓練 ⑧火災避難訓練 ⑨ロープ結索訓練 ⑩消火ホースキット取扱い訓練 ⑪降雨対応訓練</p> <p>【啓発】 ①消防団・消防ボランティアの広報・啓発 ②仮設トイレ(環境局) ③吸収式携帯トイレ啓発・実演(シエラ株式会社) ④水害VR体験(危機管理担当) ⑤子ども防災マップ(まごころキッチン) ⑥ボランティアセンター(社会福祉協議会) ⑦災害用伝言ダイヤル(NTT) ⑧感電ブレーカー(東京電力) ⑨マイコンメーター(東京ガス) ⑩避難所用ベビーカー(コンビニエンス) ⑪防災ワークショップ(専修大学生ボランティア) ⑫懸垂降下(多摩消防署) ⑬防災啓発(地域みまもり支援センター、まちづくり局、多摩警察署、危機管理担当)</p>	<p>【成果】 ①避難所開設訓練の全てについて、避難所運営会議等地域の方が行うとともに、第1回訓練を踏まえ、体育館の事前準備を一切行わず、備蓄倉庫を開け、必要物資を搬出する状態から避難所を立上げる訓練を行ったことから、実践に即したリアリティーのある訓練ができた。 ②防災に関わる団体による啓発・訓練を行い、地域住民の防災への関心・知識を高め、防災力の向上を図ることができた。 ③乳幼児・子どもの避難啓発として、新たに避難所用ベビーカー及び子ども防災マップの啓発を行い、地域住民に対して乳幼児・子どもの避難への理解を深めることができた。</p> <p>【反省点】 会場の立地上、訓練ブースや啓発ブースが置かれたエリアが複数に分散したことにより、来場者及び避難所開設訓練参加者の中に全てのエリアに立ち寄らず帰られる方が見受けられた。</p> <p>【今後の取組み】 来場者に訓練ブースや啓発ブースの配置がうまく伝わるように、分かりやすい案内の設置を行っていく。</p>
		 <p>避難所開設訓練</p>  <p>降雨対応訓練</p>  <p>子ども防災マップづくり</p>  <p>専修大学防災ワークショップ</p>			

# 令和4年度 川崎市防災訓練の実施結果について

		日時・場所	目的	内容	成果及び反省点
麻生区	第1回	<p>【日時】 令和4年11月12(土) 9時30分～12時00分</p> <p>【会場】 新百合ヶ丘駅南口ペデストリアンデッキ・麻生区役所前広場・麻生市民館</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの方に防災を意識してもらえる訓練</li> <li>誰もが参加しやすい環境</li> <li>より実践に即した訓練</li> </ul> <p>こうした訓練の場を設けることで、自助・共助・公助の役割を理解し、災害に備えることの重要性を認識してもらい地域防災力の向上を目指す。</p>	<p>【メイン会場】(新百合ヶ丘駅南口ペデストリアンデッキ)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>大型商業施設避難訓練 新百合ヶ丘駅周辺の大型商業施設と連携した通信訓練及び避難訓練の実施</li> <li>帰宅困難者対策訓練 各一時滞在施設(4施設)との同時無線交信訓練を実施し、大型商業施設から避難した区民を小田急新百合ヶ丘駅員と連携し、一時滞在施設である麻生市民館への誘導訓練の実施</li> <li>初期消火訓練・応急手当訓練 麻生消防団による水消火器を使用した初期消火訓練の実施 日赤防災ボランティアによる止血法、応急手当訓練の実施</li> <li>防災啓発ブース展示 団体、企業による28の啓発や体験ブースを設置</li> </ol> <p>【サテライト会場】(麻生区役所前広場・麻生市民館)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>帰宅困難者受入訓練 新百合ヶ丘駅から避難した帰宅困難者の受け入れ訓練の実施</li> <li>救出・搬送訓練 麻生消防署がはしご車で救出し、自衛隊員が搬送する連携訓練の実施</li> <li>地震体験・給水体験 地震体験車による地震体験及び給水車による給水体験</li> <li>炊出し訓練 災害防災食(ツナカレー)400食の炊出し訓練を実施 訓練参加者による防災食の試食の実施</li> </ol>	<p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>通行量の多い駅前前で実施したことで、日頃、訓練に参加する機会のない方にも情報提供を行うことができた。(来場者及び参加者数約8,000人)</li> <li>帰宅困難者対策訓練は小学生を含む約100人の参加があったが、避難ルートの設定など多くの課題を確認することができた。</li> <li>県立麻生養護学校や麻生区聴覚障害者協会、川崎市身体障害者協会、麻生区身体障害者、(児)団体協議会によるブース展示や聴覚障害者協会会員の帰宅困難者対策訓練や初期消火訓練への参加などがあり、障害者避難への理解を深めるきっかけを作ることができた。</li> <li>炊出し訓練を地域の食生活改善推進委員と協働で行うことで、災害時の食生活指導、及び災害時の協力体制を構築することができた。</li> </ol> <p>【反省点】 帰宅困難者対策訓練において、一時滞在施設へのルート選定や少人数グループでの避難などを含め、参加者の安全等を踏まえたうえで、リアリティをもった訓練内容の検討が必要であった。</p> <p>【今後の取組み】 地域防災力の向上のため、本訓練での反省や課題等を踏まえた上で、自助・共助・公助の理念、災害への備え等の啓発、多様な主体の連携、有事を想定したリアリティある訓練を地道に継続して行う。</p>
		     	<p>大型商業施設避難訓練</p> <p>帰宅困難者対策訓練</p> <p>初期消火訓練</p> <p>防災啓発ブース</p> <p>救出・搬送訓練</p> <p>炊出し訓練</p>		
	第2回	<p>【日時】 令和4年12月3日(土) 9時30分～12時30分</p> <p>【会場】 旧白山中学校 校庭・体育館</p>	<p>「自らの生命は自ら守る。地域のことは地域で守る」という防災の基本に即し、実践的訓練を通して、自主防災組織の共助の促進と防災対応力の強化を図る。</p> <p>自主防災組織が保有している資機材の取扱いや備蓄倉庫に保管されている備蓄品を使用した実践演習等を通して自主防災組織の災害活動能力の向上を図る。</p>	<p>【実践的訓練】 参加した自主防災組織(約100人)を4グループに分け各ブースにおいて実践的な訓練を実施</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>資機材実践演習(チェーンソー、ロープワーク)～麻生消防署・麻生消防団</li> <li>担架搬送訓練～麻生消防署・麻生消防団</li> <li>仮設トイレ組立訓練～環境局多摩生活環境事業所</li> <li>応急給水訓練～上下水道局北部サービスセンター</li> </ol> <p>【防災講座】(市民防災研究所)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>避難所開設・運営講座</li> <li>マンション防災講座</li> </ol>	<p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>専門家の指導の下、災害時において実用的な技術・知識の習得になったと感想が寄せられている。</li> <li>安全確保が必要なチェーンソー実践演習は、単体での訓練が難しく、実践する機会がないため、多くの参加者から評価を得た。</li> </ol> <p>【反省点】 講師等の受け入れ態勢が整っていたことから、より多くの自主防災組織への声掛けや、防災講座への参加や見学が可能であった一般の市民に対する広報を広く行うべきであったと考える。また、開催時期や場所についても検討する。</p> <p>【今後の取組み】 本訓練での反省や課題等を踏まえた上で、「自らの生命は自ら守る。地域のことは地域で守る」ため、自主防災組織の共助の促進と災害対応能力向上のための実践演習を地道に継続する。</p>
		    	<p>資機材実践演習(チェーンソー)</p> <p>資機材実践演習(ロープワーク)</p> <p>仮設トイレ組立訓練</p> <p>応急給水訓練</p> <p>避難所開設・運営講座</p>		

# 令和4年度 川崎市防災訓練の実施結果について

## (3) その他の訓練

### ア 市災害対策本部訓練等

#### (ア) 参集・災害対策本部訓練 令和4年5月26日(木)

川崎市を震源とする最大震度6強の地震が8時35分に発生、事前に日時の予告なく、メールにて災害対策本部員に緊急参集を通知した。

ブラインド方式により総合防災情報システムを使用した状況付与のもと、災害対策本部の開催等をプレイヤーが判断する訓練を実施した。

《実施結果》第1回災害対策本部会議は、発災55分後から開催できたが、17名が本人出席、12名が代理出席、2名が欠席、1名が遅刻であった。欠席・遅刻については、重要な連絡をシステムだけに頼っていたための見落とし及び事務局側が電話による呼び出しを行わなかったことが原因であり、双方に問題があった。

#### (イ) 風水害図上訓練 令和4年7月26日(火)

大型台風が接近・上陸する想定のもと、台風上陸までは事前に、その後はブラインド方式により状況を付与し、避難指示発令の判断等について訓練を実施した。

《実施結果》避難指示の判断については実施したものの、緊急安全確保の発令に関する市と区の状況認識の違いにより混乱が発生した。重要な状況判断を正確な情報に基づいて行うために正確な用語を使用すべきこと、重要な情報は現場に確認すること等の重要性を再確認した。

#### (ウ) 震災図上訓練 令和5年2月2日(木)

川崎市を震源とする最大震度7の地震発災から3日間の状況と課題をプレイヤーに3ヶ月前に付与し、訓練当日を4日目として、以降に実施すべき対策を検討する訓練を実施した。

そのなかから、重要案件を抽出し、訓練当日に市長へ報告を行った。

《実施結果》「災害廃棄物の処理」「応急住宅対策」「建物被害認定調査」「遺体の取扱い」の4つの案件について、関係局間で事前調整をおこなうとともに、訓練当日は、危機管理本部がその調整状況を確認する時間を設けた。主管局が単独で実施困難な案件は、複数の局でプロジェクト化すべきだが、その体制や調整方法に関する認識に相違があり、今後も検討・訓練を継続して行う必要がある。



参集・災害対策本部訓練



風水害図上訓練



風水害図上訓練



震災図上訓練

# 令和4年度 川崎市防災訓練の実施結果について

参考資料

## イ 各部・区本部における訓練

地域防災計画・業務継続計画等に定める各部・区本部の分掌事務に基づき、それぞれの細部計画、マニュアル等の検証・見直しを図るとともに、職員の災害対応能力の向上、意識の高揚を図るため、各部・区本部ごとにそれぞれ独自の訓練を計画し実施する。

部局名	訓練名	主な参加者	実施日	参加人数
総務企画局	総務企画部情報伝達訓練	局職員	令和4年5月26日 及び7月26日	20
総務企画局	総務企画部運営訓練	局職員	令和4年2月2日	30
市民文化局	令和4年度 市民文化局 職員向けメール配信システム訓練 (令和4年度 市民文化局職員災害時安否確認訓練)	局職員	令和5年2月1日	161
経済労働局	令和4年度 経済労働局防災訓練 情報伝達訓練	局職員	令和4年4月10日	185
環境局	バンカー火災訓練回転破砕機・剪断破砕機火災訓練	局職員、委託業者(粗大ごみ処理施設関係者)	令和4年5月31日	27
健康福祉局	災害時高齢者・障害者施設等情報共有システム情報伝達訓練	健康福祉局(災害福祉調整本部)、こども未来局、各区支所高齢・障害課、高齢者施設、障害者施設、児童福祉施設、市社協、老施協	令和4年7月28日	210
健康福祉局	災害時高齢者・障害者施設等情報共有システム及び防災無線機を活用した情報伝達訓練	健康福祉局、各区支所高齢・障害課、高齢者施設、障害者施設、地域包括支援センター、基幹相談支援センター、市社協、老施協	令和4年12月22日	265
健康福祉局	電気自動車を活用した二次避難所における災害時の電力確保訓練	医療的ケア児、健康福祉局、南部リハビリテーションセンター、危機管理本部、国土交通省、三菱自動車工業株式会社、トヨタ自動車株式会社	令和4年11月11日	60
健康福祉局	電気自動車を活用した二次避難所における災害時の電力確保訓練【予定】	医療的ケア児、健康福祉局、北部リハビリテーションセンター、危機管理本部、三菱自動車工業株式会社	令和5年3月17日	—
健康福祉局	二次避難所開設訓練	健康福祉局総合リハビリテーション推進センター 総合研修センター(川崎市社会福祉協議会)	令和5年2月27日	20
健康福祉局	災害時保健医療マネジメント研修(保健分野/局職員対象)	健康福祉局職員	令和4年10月13日	19
健康福祉局	災害時保健医療マネジメント研修(保健分野/区職員対象)	各区保健衛生・福祉班職員	幸区: 令和4年10月17日 中原区: 令和4年10月5日 高津区: 令和4年10月7日 宮前区: 令和4年10月11日	72
健康福祉局	保健医療調整本部訓練(保健分野/フェーズ0)	健康福祉局職員	令和4年10月21日	10
健康福祉局	保健医療調整本部訓練(保健分野/フェーズ2)	健康福祉局職員、各区職員、市災害医療コーディネーター、関係団体	令和4年10月23日	68
健康福祉局	保健医療調整本部訓練(医療対応)	健康福祉局職員	令和4年6月5日	40
健康福祉局	災害時病院連携訓練(南部)(北部)	健康福祉局職員・各市内病院職員	令和4年11月20日 令和4年12月11日	530

# 令和4年度 川崎市防災訓練の実施結果について

参考資料

部局名	訓練名	主な参加者	実施日	参加人数
健康福祉局	動物救援本部立ち上げ訓練	健康福祉局保健医療政策部生活衛生担当 公益社団法人川崎市獣医師会	令和5年2月6日	53
健康福祉局	消防避難訓練	健康福祉局市立看護大学教員・学生	令和4年4月6日	290
こども未来局	災害情報伝達訓練【予定】	局職員、独立行政法人福祉医療機構	令和5年3月23日	32
まちづくり局	職員向けメール配信システムを利用した緊急時連絡訓練	まちづくり局の動員対象全職員	令和4年7月23日	366
建設緑政局	令和4年度建設緑政事業風水害図上シミュレーション訓練	建設緑政局、幸区役所道路公園センター、 宮前区役所道路公園センター	令和4年11月28日	23
港湾局	東京湾航行支援協議会(BCP) 情報伝達訓練	局職員、東京湾航行支援協議会	令和4年5月10日 令和4年11月30日	30
港湾局	首都直下地震防災訓練(実動訓練)	局職員、関東地方整備局、行政機関 川崎港運協会、民間団体・企業	令和4年11月17日	357
港湾局	石油コンビナート等合同図上訓練	局職員、川崎市・横浜市及び各消防局、臨港石油事業者等	令和4年11月9日	74
臨海部 国際戦略本部	臨海部国際戦略本部図上訓練【予定】	局職員 川崎生命科学環境研究センター防災センター	令和5年3月16日	—
危機管理本部	令和4年度 参集・災害対策本部訓練	各局(本部) 室区の災害対策本部要員	令和4年5月26日	300
危機管理本部	令和4年度 風水害図上訓練	各局(本部) 室区職員、関係機関	令和4年7月26日	360
危機管理本部	令和4年度 川崎市総合防災訓練(第43回 九都県市合同防災訓練)	避難所運営会議、一般市民、関係機関、団体、市職員	令和4年9月4日	1,000
危機管理本部	第2回九都県市合同防災訓練・域内応援図上訓練	埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、千葉県、 さいたま市、横浜市、相模原市	令和5年1月31日	30
危機管理本部	令和4年度 震災図上訓練	関係局(本部) 区職員	令和5年2月2日	60
危機管理本部	「広域・大規模災害時における指定都市市長会行動計画」に基づく図上訓練	仙台市、相模原市、静岡市、堺市、広島市、北九州市、 指定都市事務局	令和5年2月7日	55
危機管理本部	令和4年度 地下街等との情報伝達訓練	職員、川崎アゼリア等地下街施設	令和4年6月16日	16

# 令和4年度 川崎市防災訓練の実施結果について

参考資料

部局名	訓練名	主な参加者	実施日	参加人数
危機管理本部	停電時における情報伝達訓練	危機管理本部、各区役所危機管理担当	令和4年9月26日 ～28日	20
危機管理本部	川崎臨海部広域防災訓練【予定】	危機管理本部、臨海部国際戦略本部、消防局、 千鳥地区防災協議会、東亜石油（株）、 日本冶金工業（株）、臨海部帰宅困難者一時滞在施設	令和5年3月22日	—
危機管理本部	津波避難訓練	市立臨港中学校避難所運営会議、周辺住民、 富士通（株）、川崎区役所、危機管理本部	令和5年2月12日	130
会計室	令和4年度会計室防災訓練（伝達訓練）	会計年度任用職員を除く全職員	令和5年2月25日	26
会計室	令和4年度会計室防災訓練（会計部想定訓練）	会計年度任用職員を除く全職員	令和5年2月21日 ～3月2日	26
川崎区役所	令和4年度第1回川崎区総合防災訓練	川崎区自主防災組織連絡協議会、 各関連機関・団体、市職員	令和4年10月22日	306
川崎区役所	令和4年度川崎区災害対策本部開設訓練	川崎区災害対策本部要員等	令和4年7月26日	42
川崎区役所	令和4年度第2回川崎区総合防災訓練	川崎区自主防災組織連絡協議会、 各関連機関・団体、市職員	令和5年2月12日	380
川崎区役所	令和4年度川崎駅周辺帰宅困難者対策訓練	JR川崎駅、京急川崎駅、 川崎駅周辺帰宅困難者一時滞在施設、 危機管理本部、川崎区役所、幸区役所	令和5年3月2日	45
幸区役所	令和4年度第1回幸区総合防災訓練	川崎区自主防災組織連絡協議会、 各関連機関・団体、市職員	令和4年6月5日	200
幸区役所	令和4年度水防訓練	幸消防署・幸消防団・幸区役所道路公園センター	令和4年6月19日	73
幸区役所	令和4年度避難所開設、情報受伝達訓練	各避難所被災者支援班	令和4年7月 ～11月	60
幸区役所	令和4年度区災害警戒本部開設訓練	幸区役所まちづくり推進部、危機管理担当	令和4年7月14日	30
幸区役所	令和4年度避難所開設・運営訓練	各避難所運営会議、各避難所運営要員	令和4年9月 ～令和5年2月	850
幸区役所	令和4年度新川崎・鹿島田駅周辺帰宅困難者対策訓練	交通事業者・企業・帰宅困難者一時滞在施設 警察・その他行政機関	令和4年12月5日	70
幸区役所	令和4年度区動員参集、区災害対策本部開設訓練	幸区役所まちづくり推進部、危機管理担当 初動対応支援職員、被災者支援班班長、副班長	令和5年1月28日	30

# 令和4年度 川崎市防災訓練の実施結果について

参考資料

部局名	訓練名	主な参加者	実施日	参加人数
幸区役所	令和4年度第2回幸区総合防災訓練	幸区内各自主防災組織、南河原中学校避難所運営会議 各関連機関・団体、市職員	令和5年2月11日	500
中原区役所	令和4年度第1回中原区総合防災訓練	中原区役所、上丸子小学校避難所運営会議	令和4年8月20日	147
中原区役所	令和4年度第2回中原区総合防災訓練	中原区自主防災組織連絡協議会、中原区役所、市民	令和5年2月25日	600
中原区役所	令和4年度水防訓練	中原消防署、中原消防団、中原区道路公園センター 中原区危機管理担当、中原警察	令和4年6月20日	60
中原区役所	令和4年度中原区災害対策本部開設訓練	中原区役所	令和4年7月26日	13
中原区役所	令和4年度武蔵小杉駅周辺帰宅困難者対策訓練	中原区危機管理担当、鉄道事業者 帰宅困難者一時滞在施設職員	令和5年2月16日	20
高津区役所	令和4年度高津区災害対策本部訓練	高津区役所	令和4年5月31日	40
高津区役所	令和4年度高津区風水害図上訓練	高津区役所	令和4年8月31日	40
高津区役所	令和4年度 高津地区防災訓練	高津地区自主防災組織連絡協議会 各関連機関・団体、高津区役所	令和4年11月5日	620
高津区役所	高津区災害時保健医療活動訓練	高津区役所	令和4年11月29日	30
高津区役所	令和4年度 橘地区自主防火防災訓練	橘地区連合自治会、高津区役所	令和5年3月5日	350
宮前区役所	区災害対応本部訓練	区本部委員、庶務班	令和4年5月11日	18
宮前区役所	令和4年度第1回宮前区総合防災訓練	避難所運営会議、一般市民、関係機関・団体、市職員	令和4年9月4日	1000
宮前区役所	令和4年度第2回宮前区総合防災訓練	避難所運営会議、一般市民、関係機関・団体、宮前区役所	令和5年2月12日	460
宮前区役所	宮前区災害時保健医療福祉活動訓練	保健衛生福祉班職員	令和5年2月23日	50
多摩区役所	令和4年度第1回多摩区総合防災訓練	避難所運営会議、町内会、自主防災組織、防災協力事業所	令和4年11月6日	476

# 令和4年度 川崎市防災訓練の実施結果について

参考資料

部局名	訓練名	主な参加者	実施日	参加人数
多摩区役所	令和4年度第2回多摩区総合防災訓練	避難所運営会議、町内会、自主防災組織、防災協力事業所	令和4年12月11日	390
多摩区役所	令和4年度水防訓練	多摩区道路公園センター、多摩消防署、多摩消防団	令和4年6月24日	50
多摩区役所	区本部設置訓練	区本部要員、事務局員、情報広報班	令和4年7月26日	17
多摩区役所	停電時情報伝達訓練	多摩消防署、多摩警察署、東京電力、鉄道各社 各一時滞在施設	令和4年9月27日	15
多摩区役所	風水害対応訓練	道路公園センター、危機管理担当	令和4年10月18日	23
多摩区役所	令和4年度テロ災害対応合同訓練	神奈川県警、多摩警察、多摩消防、宮前消防 多摩消防団、県警・消防航空隊、多摩区役所	令和4年11月16日	84
麻生区役所	令和4年区民防災塾（計2回）	麻生区役所	令和4年6月4日 令和4年10月22日	71
麻生区役所	避難所開設・運営訓練	麻生区役所、麻生区自主防災連絡協議会、 王禅寺小・中学校避難所運営会議	令和4年12月17日	40
麻生区役所	区本部長立上げ訓練（地震対応想定）	麻生区役所	令和4年5月9日	31
麻生区役所	令和4年度麻生区災害対策連絡協議会 第1回麻生区保健衛生・福祉班訓練	麻生区役所	令和4年10月31日	62
麻生区役所	区本部開設・運営訓練	麻生区役所	令和5年2月22日	60
麻生区役所	令和4年度第1回麻生区総合防災訓練	麻生区民、麻生区自主防災連絡協議会、麻生区企業市民、 麻生区役所、各行政機関、麻生消防署・消防団、 麻生警察署、自衛隊	令和4年11月12日	8,000
麻生区役所	令和4年度第2回麻生区総合防災訓練	麻生区民、麻生区自主防災連絡協議会、麻生区役所、 麻生消防署・消防団、環境局、上下水道局	令和4年12月3日	150
上下水道局	応急給水活動訓練	上下水道局職員	令和4年6月2日	60
上下水道局	排水ポンプ車訓練	上下水道局、各事務所下水道管内管きょ緊急工事受注者	令和4年2月22日	35
上下水道局	上下水道局危機管理訓練（情報連絡訓練）	上下水道局職員	令和4年9月15日	31



# 令和4年度 川崎市防災訓練の実施結果について

参考資料

部局名	訓練名	主な参加者	実施日	参加人数
上下水道局	令和4年度 等々力緑地浸水対策図上訓練	中原区役所、建設緑政局、市民文化局、上下水道局	令和4年5月20日	21
上下水道局	東京・川崎登戸連絡管水相互融通訓練	川崎市上下水道局、東京都水道局	令和4年10月13日	30
上下水道局	東京・川崎町田連絡管水相互融通訓練	川崎市上下水道局、東京都水道局	令和4年11月17日	30
上下水道局	札幌市・静岡市・川崎市合同防災訓練	川崎市上下水道局、札幌水道局、静岡市上下水道局	令和4年11月8日 ～10日	60
上下水道局	静岡市・川崎市合同防災訓練	川崎市上下水道局、静岡市上下水道局	令和4年6月28日 ～29日	30
上下水道局	災害時支援大都市連絡会議 簡易情報連絡訓練	国土交通省、21政令指定都市、日本下水道協会	令和4年4月4日	21政令指定都市 +国土交通省
上下水道局	等々力緑地浸水対策 簡易情報連絡訓練	中原区役所、建設緑政局、市民文化局、上下水道局	令和4年4月8日	16
上下水道局	災害時支援関東ブロック 簡易情報連絡訓練	国土交通省、1都6県、横浜市、相模原市等	令和4年4月25日	関東ブロック 構成員
上下水道局	大都市間情報連絡訓練	国土交通省、21政令指定都市、日本下水道協会	令和4年5月24日	21政令指定都市 +国土交通省
上下水道局	災害時支援関東ブロック 情報連絡訓練	国土交通省、1都6県、横浜市、相模原市等	令和4年7月21日	関東ブロック 構成員
上下水道局	災害時支援大都市連絡会議 同時被災情報連絡訓練	国土交通省、21政令指定都市、日本下水道協会	令和4年10月27日	21政令指定都市 +国土交通省
上下水道局	令和4年度 等々力緑地浸水対策実地訓練	中原区役所、建設緑政局、市民文化局、上下水道局	令和4年6月6日	47
上下水道局	上下水道局相互応援訓練 (排水ポンプ車による排水活動訓練)	上下水道局職員	令和4年11月15日	60
上下水道局	上下水道局相互応援訓練 (排水樋管周辺パトロール活動訓練)	上下水道局職員	令和4年12月21日	16
上下水道局	上下水道局相互応援訓練 (メールニュースかわさき班対応訓練)	上下水道局職員	令和5年1月18日	11
上下水道局	上下水道局発災時参集訓練	上下水道局職員	令和4年11月21日 ～令和5年1月31日	1,100

# 令和4年度 川崎市防災訓練の実施結果について

参考資料

部局名	訓練名	主な参加者	実施日	参加人数
上下水道局	重要医療機関への応急給水訓練	上下水道局・健康福祉局・病院局、危機管理本部	令和5年2月15日	30
病院局	令和4年度第1回病院局本庁部門緊急連絡網伝達訓練	病院局本庁勤務職員（会計年度任用職員含む）	令和4年9月4日	46
病院局	令和4年度鹿島田看護職員宿舎消防（防災）訓練	入寮者及び病院局庶務課職員	令和4年10月24日	20
消防局	本部警防訓練	局職員	令和5年3月2日	72
消防局	東京湾消防相互応援協定に基づく合同消防訓練	東京消防庁、横浜市・千葉市・市川市各消防局 海上保安庁ほか5機関	令和4年10月18日	135
消防局	緊急消防援助隊部隊集結訓練及び第二ブロック後方支援活動訓練	神奈川県、横須賀市消防局、鎌倉市消防局 逗子市消防本部、葉山町消防本部	令和4年12月5日	135
教育委員会事務局	令和4年度総合教育センター消防（防災）訓練	市職員、委託業者	令和4年10月12日	84
教育委員会事務局	令和4年度日本民家園第1回災害訓練	市職員、指定管理者	令和4年9月14日	5
教育委員会事務局	令和4年度日本民家園第3回災害訓練	市職員、指定管理者	令和5年1月18日	25
教育委員会事務局	令和4年度日本民家園第4回災害訓練【予定】	市職員、指定管理者	令和5年3月10日	35
教育委員会事務局	被災状況報告訓練	各市立学校、教育委員会事務局各課	令和4年10月27日	214
議会局	第1回安否確認メール訓練	市議会議員、議会局職員	令和4年9月1日	98
議会局	令和4年度川崎市議会避難訓練	市議会議員、各議員控室職員、議会局職員、守衛職員 消防局職員（協力）	令和4年11月30日	112
議会局	第2回安否確認メール訓練【予定】	—	令和5年3月予定	98